

## ②イベントごとの実施計画設計手順

前述した伝承実施の実績に基づき、5手法のイベントごとに実施計画設計の手順を以下に示す。他地域で伝承実施を行う際には、この手順を参考にしながら、内容の組み立てを行いつつ、地域固有の条件や情報を加味することが必要になる。

### ①災害教訓伝承授業

小学校での授業を想定しており、総合学習と教科学習（理科・社会など）の2パターンの手順を示す。総合学習での計画上の注意点、手順は以下の通りである。

【総合学習】 災害教訓伝承授業（総合学習）の実例 資料編 7-1【3年生】【4年生】参照

- ・授業の進行は担任の先生にお任せし、外部講師として授業に参加する。
- ・テーマを与えるのではなく、活動していく中で子ども達に見つけさせる。
- ・総合学習の基本的な考え方は子ども達の自主性を重要としているので、子ども達が気づいたことから授業内容を展開するので、当初計画していたものから変更になる可能性がある。
- ・授業の後には必ず振り返りの会を設け、授業の中で分かったことや疑問に思ったこと、次回に学びたいことを整理しておく。

①学校全体で行われている総合学習の中で、今回のテーマに合致しそうなクラスをピックアップしていただく

②担当の先生自身にも災害教訓伝承の必要性などを事前に説明し、意識の向上を図る

③年間で行われている総合学習のテーマに「災害教訓伝承」内容を盛り込めるかどうか、総合学習の年間計画を基にその可能性について先生と調整／どのような流れで災害教訓伝承につなげることが可能か先生の方でも流れを考えていただく

④クラスの雰囲気や授業の様子を把握するために総合学習の事前見学

⑤子ども達の「気づき」に基づき授業が展開するように全体の流れを作成

⑥授業回数と各回の内容、使用する伝承素材をまとめる  
※授業の内容は出来るだけフィールドワークを伴ったものとし、写真や映像など視覚的に知識を醸成できるものを用いる

⑦各回の講師役について連携する機関と調整

⑧授業に使用する資料の作成

⑨事前事後で災害に対する意識を把握するためのアンケート作成  
※総合学習の場合は一連の授業の中でアンケート実施が難しい場合もあるので、その場合は実施後のアンケート等に対応する

⑩フィールドワークを伴う場合は児童の安全確認

⑪授業前日に先生から明日の伝承授業について生徒に説明してもらい、意識を高める

**⑫授業実施**

※授業の進行は先生にお任せし、授業の最後に振り返りの時間を設けてもらう

⑬授業を振り返って壁新聞や感想文に学んだ内容を取りまとめる

⑭先生に授業の感想や今後の改善点をヒアリングする

⑮クラスの中や学校全体で発表会を行う

※家族や地域の人にも参加してもらい、子ども達から地域へ広がるような工夫を行う

【教科学習】災害教訓伝承授業（教科学習）の実例 資料編 7-1 【5年生】【6年生】参照

- ・ 確実な意識の変化をねらう場合には、主導的に授業の組み立てを行える教科学習も有効である。
- ・ 授業の宿題という形で家に課題を持ち帰ってもらい、家族で考えてもらうことにより親の防災意識の向上を行う想定をしておく。
- ・ 同じ小学生を対象とする場合にも低学年と高学年で同様の内容を扱うのではなく、高学年の場合には地域リーダーとして活躍してもらうための内容とする。

①各学年の教科学習（理科・社会）の年間テーマを調べる。

②担任教諭と教科学習のテーマと「災害教訓伝承」をどのように組み合わせるのか調整

③授業の全体の流れ、災害に対する意識をどこまで変化させることを目標とするのか検討

④授業回数と各回の内容、使用する伝承素材をまとめる  
※使用する素材は出来るだけ写真や画像、地物、お話などを利用して子どもたちに伝わりやすい内容とする  
※的確な判断・行動にまで意識を変化させる場合のツールとして防災マップ等が有効である

⑤各回の講師役について連携する機関と調整

⑥授業に使用する資料の作成

⑦事前事後で災害に対する意識を把握するためのアンケート作成

⑧フィールドワークをとまなう場合は児童の安全確認

⑨授業前日に先生から明日の伝承授業について生徒に説明してもらい、意識を高める  
※前回の授業で宿題を出していた場合は、前日に先生から確認していただく。

⑩授業実施  
※授業前には今日(前回)の流れを説明、授業後には振り返りを行う

⑪最終授業ではこれまでを振り返って壁新聞や感想文に学んだ内容を取りまとめる

⑫クラスの中や学校全体で発表会を行う  
※親や地域の人にも参加してもらい、壁新聞を作成した場合などは学校や役所などに掲示し広く結果を公開する。